

日朗の生誕地

匠 瑤 探 訪

180

鎌倉時代、日蓮宗を開いた日蓮の弟子に日朗がいます。日朗は下総国の生まれとされ、野手（野田地区）の朗生寺がゆかりの寺となっています。

知人から日朗に関する資料提供として、2019（平成31）年1月池上

本門寺（東京都大田区）で第二祖日朗菩薩第七百遠忌が行われた際に、本門寺霊宝館が発行した報恩記念誌の提供がありました。

その中で、日朗の出生地を400年ほど前の記

録に「下総国能手郷」と見られることから、「匠瑤野手村」が伝承しています。

同寺には、1723（享保8）年日顛上人により建てられた「日朗聖人生誕地供養塔」があります。

日顛は木積村（豊栄地区）に生まれ、10歳で出家得度し、飯高檀林などに学び同檀林の化主（檀林長）も勤めました。木積・円實寺は日顛の最初の師が開き、隠棲したとされます。

日顛は碑の造立にあたり野手村の領主や門弟子者などの協力を得たとされます。

ここで注目するのは塔の下端、基礎部分に刻まれた内容です。塔が立った1723年時点で野手村を含む近隣10余カ村に日朗の遺徳を信仰する「朗師講」が存在したことです。檀林が所在する飯高村城下、同仲台、内山本村、同新田、鑄木本村（旭市）、万力（旭市）、木積、久方、吉田、谷辺（八辺）、八日市場、椿村などの村むらです。

この供養塔は江戸で製造されたよう、小見川（香取市）まで舟便で、そこから野手村までは朗師講の人たちの手で輸送されたとされます。

本紙（令和2年5月号）で紹介した「日朗の石塔」でも香取郡内に60を超える朗師講が確認され、それらは幕末ころまで存続したのでしょうか。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘 書 課 広 報 広 聴 班

☎ 73・0080



朗生寺にある日朗聖人生誕地供養塔